

高齢者のヘルスリテラシー向上のための教材開発

－成果物の概要－

三輪眞木子¹⁾、佐藤正恵²⁾、山下ユミ³⁾、磯部ゆき江⁴⁾、阿部由美子¹⁾
放送大学¹⁾、千葉県済生会習志野病院²⁾、京都府立図書館³⁾、二松学舎大学⁴⁾

本研究は、高齢者のヘルスリテラシー向上を促す方策として教材を開発した。ポスター発表では、教材開発に至るまでの研究プロセス、開発した教材の紹介、および教材の評価とインストラクションの効果検証の方法を述べる。

背景と目的：高齢化が進む日本では、高齢者層の健康管理が重要課題となっており、健康寿命の延長方策が求められている。本研究は、これまで十分論じられてこなかった医療情報アクセスにおける年齢によるデジタルデバイドに着目し、高齢者のヘルスリテラシーとインターネット利用に相関があることを検証した。また、高齢者のヘルスリテラシー向上を促す方策として教材を開発し、この教材を用いたインストラクションの効果を検証する。

研究の方法と結果：高齢者のヘルスリテラシーと健康寿命の関係を探求するため、医療者計10名を対象に、2020年1月～6月に、対面、Web、電話により半構造化インタビューを実施した。インタビューの内容分析結果から、健康維持への取組に男女差があること、健康医療情報の収集にインターネットを利用する高齢者が増えていること、仕事を辞めた後、地域と関連しない孤立男性に課題があることが明らかとなった。

医療者のインタビュー結果に基づき調査票を設計し、2021年1月～10月に65歳以上の高齢者を対象にアンケート調査を実施し、102名から有効回答を得た。回答を統計的に分析した結果、5%水準で、健康医療情報の入手にインターネットを使う人は使わない人より、ヘルスリテラシーレベルが高いこと、ヘルスリテラシーレベルには年齢による有意差は認められないこと、ヘルスリテラシーの一要素である「情報を理解して人に伝えることができる」について、10%水準で女性が男性より高い有意傾向が認められることが明らかになった。

成果物の設計と評価：医療者インタビュー調査と高齢者アンケート調査結果に基づき、7章からなる教材を設計した。各章の表題を以下に示す。

第1章：ヘルスリテラシーは健康維持に欠かせない

第2章：ネット社会からこぼれおちないために情報格差をなくす

第3章：図書館で健康・医療情報を調べる

第4章：インターネットで健康・医療情報を調べる

第5章：専門的な知識を得るために医学情報を探す

第6章：社会や家族・地域とつながる

第7章：健康を維持する行動を心がける

教材の評価とインストラクション効果の検証：放送大学の双方向Web授業で本教材を採用し、受講生の学習目標達成度を測定と自由記述による教材評価を実施する。